



エッジ・テクノロジー 株式会社  
代表取締役社長

**福本 英之**

学業修了後は大手飲食チェーンに入社。知人の誘いを受けて、1997年にシステムエンジニアとして証券会社に入社。プログラムの組み方から学び、さまざまなプロジェクトに従事するなど幅広い経験を積む。その後、独立してフリーのエンジニアとして活動を開始。大手企業のシステム開発に複数携わる中で、CTIの新たなサービスの構想を立て、2017年、仲間と共にエッジ・テクノロジー（株）を立ち上げた。

# テクノロジーにメスを入れる鋭利な“刃先” 既存のシステムをより身近で便利なものに

企業のサービス向上、集客アップのためのシステム開発に携わるエッジ・テクノロジー（株）。  
連動性が高く、かつ分かりやすいシステムを提供することで、顧客の利便性を向上させる  
というのが同社のミッションだ。福本社長が抱く熱い思いを、俳優の川崎麻世さんが伺った。

**築き上げた土台をフルに活用**

川崎 福本社長は長くシステムエンジニアとして活躍されていたそうですね。この度、起業に至った経緯というのは？  
福本 私は長年、大手証券会社のシステムエンジニアとして、顧客管理はもとより、ほぼ全ての証券システム開発に携わってきました。それからフリーとして独立し、さまざまな開発を手掛けるうちに、「自分でも独自のサービスを提供したい」という思いが募るようになったのです。そうした中で、ふと各業界の企業内システムを調べてみたところ、思ったより利便化されていないな、という印象を抱きまして。

川崎 なるほど。具体的にどういったと

ころに不足を感じられたのですか？

福本 企業内には、電話と連携させた顧客管理システム——いわゆるCTIや、予約管理システム、従業員管理システムなど、数多くのシステムが導入されています。しかし、それらのシステムを開発・管理している会社はそれぞれ異なる場合がほとんどで、連動性がないと思ったのです。それならば、現状バラバラになっているものを一体化させたサービスを開発すれば、必ずニーズはあるはず。そう考えたことがきっかけとなり、有志を募ってこの会社を立ち上げた次第です。  
川崎 大手企業も参入する分野に新規で足を踏み入れるのは、とてもチャレンジングなことだと思います。実際に起業されてみて、手応えはいかがですか？

福本 IT業界版の『陸王』のような気持ちでチャレンジする立場になり、プレッシャーは大きいですね。ただ、勤務時代からシステムに関することは、法律や税務面などを含めてありとあらゆる角度から勉強してきました。そうして蓄えた知識をもって、どんな業種のお客様にも最適なシステムを提案できるという自信があります。ちなみに最近も、口座開設のために信用銀行を訪れた際、私の経歴書を見た営業の方から「投資信託に精通されているんですね」とお声掛け頂き、そこからシステム開発の案件につながりました。そうして、自分自身のノウハウや経験を生かした事業展開ができており、手応えは十分ですね。

**高機能でありながら簡単なシステムを**

川崎 現在、御社で開発されているシステムについても詳しく教えてください。  
福本 基本的にはCTIがベースとなっており、そこにホームページと連動した予約システムや、仮想通貨決済、GPS機能などを付加させた包括的なシステム開発を行っています。その中で私が常に意識しているのが、いかに操作しやすいシステムをつくり、その上で安価で身近なものにできるかということ。どんなに高機能なものであっても、それがお客様にとって使いやすく、実際に活用できるものでなければ意味がありません。そうした既存のテクノロジーが持つ複雑な部分に、鋭利な“刃先（エッジ）”で切り

Focus on the topic

**NGOのボランティアを通じ  
アジア全域で教育支援を行う**

シャンティ国際ボランティア会は、アジアの発展途上国の全ての子どもたちに教育の機会を届けるため、教育支援や緊急救援などの活動を行うNGOです。毎年100社近くの企業様にご協力を頂き、そのご協力の下で現在、学校建設、図書館活動、絵本出版や教員研修などを行っています。



込みを入れ、より簡単で分かりやすいサービスを提供したい——社名である「エッジ・テクノロジー」には、そんな私の思いが込められているのです。  
川崎 テクノロジーは日々進歩していきますから、それを分かりやすくするのは並大抵のことではないですよね。常に最新の情報を勉強し、高品質なサービスを提供し続けられる原動力が気になります。  
福本 私は複雑化したテクノロジーに立ち向かっていくこと自体に、やりがいを感じています。そして、ベースとなる知識があれば考え方の応用が利きますから、知識が増えれば増えるほど新たなものにも挑戦しやすくなり、そのことが純粋に楽しいのです。それによって、お客様の要望にも素早いレスポンスができるようになりますからね。

また、システムは少し間違えただけでも機能しなくなるという意味でシビアな部分もありますが、それをしっかりと制御することこそがエンジニアの役割であり、存在意義だと思っています。

**事業を通じ世界発展にも貢献**

川崎 社長の事業に懸ける情熱には感服します。今後のビジョンについてはいかがでしょうか。  
福本 これは個人的な夢でもあるのですが、いつか海外に語学学校を設立し、その国の識字率向上に貢献したいと考えています。識字率が上がれば雇用も増加し、その国の発展につながるはず。そのためにNGOと連携しながら、自分の仕事とも結び付け、より多くの方に協力して頂ける方法を考案しているところです。  
川崎 そうした社会貢献が、社長にとっての最終目標なのですね。最後に、未来のお客様にメッセージを頂けますか？  
福本 システムについて使いづらい部分があれば、すぐに改善いたしますので、お声掛け頂きたいと思います。また、その意見を挙げる人が1人いれば、それと同じ思いを持つ人が10人はいるもの。今後もお客様の声を集めることで、より良いシステム開発を続けてまいります。



Guest Comment>>

**川崎 麻世（俳優）**

芸能界でも覚えなければならないことはたくさんありますが、福本社長が日々インプットされていることの容量は自分と比較しても桁違いで、その努力と探究心に感嘆しました。100点のサービスは当たり前で、常に既存の技術を越えていく必要がある業界で生き抜くことは大変でしょうが、社長ならばその中でも成長し続けられると思います。私も陰ながら応援しています！

